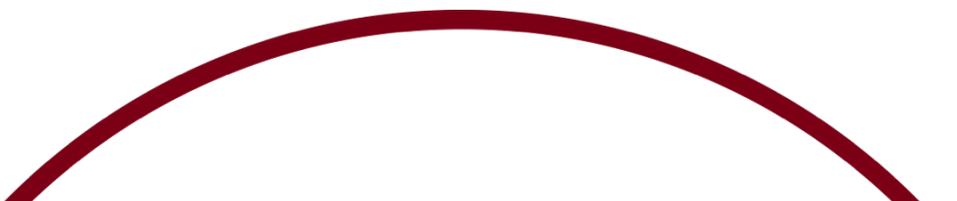


# 次期脆弱性評価に向けた検討について

—国土強靱化の状況の評価する方法の検討—

平成28年 2月 1日

内閣官房 国土強靱化推進室



次期脆弱性評価に向け、今までの懇談会で  
いただいたご意見

分類1 「45の起きているではない最悪の事態」

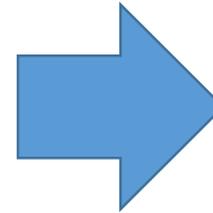
分類2 「12の個別施策分野」

分類3 「目標レベル」

分類4 「KPI（重要業績指標）」

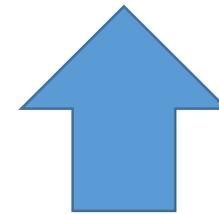
分類5 「施策効果の見える化」

第23回懇談会資料に加筆  
(平成27年12月15日)



## 国土強靱化の状況を

## 評価する方法について検討



大規模自然災害等に対する脆弱性の評価の結果（平成26年4月）国土強靱化推進本部

### 第4章 脆弱性評価に関する今後の課題

#### 2. 地域ごとの災害の起こりやすさや被害の大きさ等を考慮したリスクシナリオに基づく脆弱性評価

今回の脆弱性評価においては、低頻度大規模災害というリスクを設定しているが、災害の具体的な個別事象を想定しておらず、また統一的な災害レベルも設定していない。そのため、現状の目標が達成したとしても、国土強靱化の最終的な目標とは合致しない可能性がある。次期脆弱性評価においては、災害の個別事象をリスクとして具体化するとともに、個別事象や施策の特性に応じた国土強靱化としての目標レベル及びリスクシナリオを設定することが必要である。あわせて、個別事象の起こりやすさや影響の大きさを踏まえて施策の優先順位付け、重点化を検討することが必要である。

- 国土強靱化については、国土強靱化基本計画に基づき、毎年度のアクションプランを策定する等、PDCAサイクルを実践し、取り組みを進めている。その進捗状況を把握するために、重要業績指標（KPI）を設定するとともに統合進捗指数（IPI）を試行的に導入し、評価を行っている。
- 一方、「大規模自然災害等に対する脆弱性の評価の結果(H26.4)」において、脆弱性評価に関する今後の課題として、『個別事象や施策の特性に応じた国土強靱化としての目標レベルを設定することが必要である』等が挙げられている。加えて、ナショナル・レジリエンス懇談会において、施策を進めたことにより国土強靱化（の全体像）がどこまで進んだかという評価方法が必要と指摘されている。
- このため、次期脆弱性評価に向けて、国土強靱化の状況を評価する方法についてKPI及びIPIも含めて、幅広く検討を行う。

論点1．国土強靱化の状況を評価する方法の検討にあたって、どのような視点が必要か

(例)

- ・ 目標レベルの設定が可能か
- ・ 時系列の比較やコスト面を含めた継続性
- ・ 簡便性
- ・ 客観性、分かりやすさ
- ・ 対象とする個別の災害事象をどう考えるか
- ・ 地域計画への応用性

論点2．国土強靱化の状況を評価する方法として、どのようなものが考えられるか（次ページ以降の「評価方法の考えうる例」は、検討の方向性として、如何か）

(分類3) 「目標レベル」

## 論点2-1 国土強靱化の目標レベルの設定はどのように行うのがよいか

(主なご意見)

- ・ 人命の保護や、被害の最小化という国土強靱化の基本理念を評価することが極めて重要
- ・ 強靱化全体をトータルで評価することも必要
- ・ 短期及び長期の二段階の目標設定を検討する必要があるのではないか

cf. 仙台防災枠組2015-2030 7つのグローバルターゲット . . . 【参1】

cf. 南海トラフ地震や首都直下地震における今後10年間で達成すべき減災目標 . . . 【参2】

(分類4) 「KPI (重要業績指標)」

## 論点2-2 国土強靱化の状況の評価方法はどのように行うのがよいか

(主なご意見)

- ・ 施策から見て、どのような指標が適切かという視点で検討する必要性もあるのではないか
- ・ 建物の耐震化率のように汎用性が高くアウトカムにつながる指標を探していくことが重要
- ・ 既存の指標のみならず、どのような指標が必要なのか議論することが必要

### (1) 施策やプログラムの進捗に着目

cf.国土強靱化の目標とプログラム・指標の関係 . . . 【参3】

### (2) 災害事象に着目

南海トラフ地震や首都直下地震等の大規模災害について、被害想定の変化から国土強靱化の状況を評価

cf.被害軽減効果として見込んだ最大限の防災対策等の内容 . . . 【参4】

cf.南海トラフ地震の防災対策の効果推計 . . . 【参5】

cf.中央防災会議等が行った大規模自然災害の被害想定一覧 . . . 【参6】

## (3) ソフト対策の評価のあり方

(主なご意見)

- ・ 設定された目標に対してどのようなソフト対策があるかについて見える化することが必要である
- ・ ハードウェアとソフトウェアを組み合わせるシステムとして対策を実施することがあり、この場合のシステムは、ソフト対策の中に含まれると思っている

cf.水害時の避難・応急対策検討WGにおける論点の例 . . . 【参7】

(分類5) 「施策効果の見える化」

## (4) 継続的なアンケート調査等

(主なご意見)

- ・ 強靱化に係る意識調査の実施を検討してはどうか
- ・ 強靱化に係るエキスパート（専門家）に評価していただくことも考えられる
- ・ 施策の効果と即効性や汎用性を踏まえた上で議論することが必要である

### ① 国民へのアンケート調査

cf.内閣府「社会意識に関する世論調査」 「防災に関する世論調査」 . . . 【参8】

### ② 専門家へのアンケート調査

## (5) 上記を組み合わせた評価

## 趣 旨

- 国土強靱化については、国土強靱化基本計画に基づき、毎年度のアクションプランを策定する等、PDCAサイクルを実践し、取り組みを進めている。その進捗状況を把握するために、重要業績指標（KPI）を設定するとともに統合進捗指数（IPI）を試行的に導入し、評価を行っている。
- 一方、「大規模自然災害等に対する脆弱性の評価の結果(H26.4)」において、脆弱性評価に関する今後の課題として、「個別事象や施策の特性に応じた国土強靱化としての目標レベルを設定することが必要である」等が挙げられている。
- 加えて、ナショナル・レジリエンス懇談会において、施策を進めたことにより国土強靱化（の全体像）がどこまで進んだかという評価が必要と指摘されている。
- このため、次期脆弱性評価に向けて、国土強靱化の状況を評価する方法について検討する。

## 検討内容（例）

- 国土強靱化の状況を評価する方法について
- KPI及びIPIの改善について

## 検討体制

- 懇談会委員数名をメンバーとする「検討の場」を開催し検討  
（必要に応じてナショナル・レジリエンス懇談会委員以外も参画）
- 平成28年度中にとりまとめ、その後評価試行